Max Classroom.net

入試問題アプローチ 2017

中央大学　統一入試

（試験時間 80 分）

A　入試概況

統一入試：　過去 3 年間の受験者数、合格者数、倍率

		2017 年度入試			2016 年度入試			2015 年度入試		
		受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率	受験者	合格	倍率
法	法律 4	295	79	3.7	272	80	3.4	214	67	3.2
	国際企業 4	18	12	1.5	13	10	1.3	17	8	2.1
	政治 4	40	22	1.8	57	25	2.3	29	22	1.3
	法律 3	889	83	10.7	833	80	10.4	750	88	8.5
	国際企業 3	139	30	4.6	149	43	3.5	120	72	1.7
	政治 3	279	57	4.9	246	52	4.7	183	61	3.0
経済	経済	1,039	168	6.2	1,070	221	4.8	952	290	3.3
	情報シ	193	23	8.4	148	28	5.3	103	24	4.3
	国際経済	170	24	7.1	219	51	4.3	314	90	3.4
	公共・環境	153	21	7.3	149	26	5.7	108	31	3.5
商	フリー	1,299	223	5.8	1,270	263	4.8	1,105	279	4.0
文	国文	138	35	3.9	138	20	6.9	139	28	5.0
	英語	115	29	4.0	147	25	5.9	142	27	5.3
	独語	47	16	2.9	95	10	9.5	59	23	2.6
	仏語	56	15	3.7	101	14	7.2	43	18	2.4
	中国言語	99	23	4.3	93	18	5.2	94	31	3.0
	日本史	135	27	5.0	121	13	9.3	38	31	4.5
	東洋史	48	15	3.2	73	15	4.9	40	12	3.3
	西洋史	82	20	4.1	112	17	6.6	74	25	3.0
	哲学	66	16	4.1	75	13	5.8	68	21	3.2
	社会学	155	27	5.7	165	17	9.7	120	23	5.2
	社会情報	96	15	6.4	110	11	10.0	76	13	5.8
	教育学	64	15	4.3	78	8	9.8	83	8	10.4
	心理学	139	14	9.9	95	9	10.6	104	10	10.4
総合政策	政策	335	71	4.7	202	51	4.0	267	70	3.8
	国際政策	289	68	4.3	209	56	3.7	157	38	4.1
合計		6,378	1,148	5.5	6,240	1,176	5.3	5,399	1,412	3.8

＊合計の倍率は全体受験者÷全体合格者の計算式で算出

中央大学の統一入試は理工学部では実施していないが、全体の募集枠も 2015 年 275 名→2016 年度 260 名→2017 年度 349 名→2018 年度 337 名と推移しており、年度によって上下は見られるが、増えている傾向にある。商学部の統一入試はフリーメジャー制であり学科専攻を指定する必要がない。また法、文、総合政策は指定順位制で、複数学科（専攻）を併記して受験することができる。

中央大学全体としては、2015 年度は多くの学部で志望者減少していたものの、2016 年度は大幅な回復をし、2017 年度はその水準を維持していたという動向がある。その中で例年 2 月 9 日に行われる統一入試であるが、2016 年度は人気回復もあり、統一入試の募集枠が 15 名減ったにもかかわらず、841 名の受験者増となった。充足定員の厳格化もあり合格者が 236 名減り、倍率が 1.5 ポイント跳ね上がっ

た結果となった。

2017 年度入試　方式別の募集人数と倍率

	一般入試 個別試験		一般入試 英語検定		統一入試		センター 単独		センター 併願	
	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率	募集	倍率
法	587	3.5	---	---	104	5.9	190	非	76	非
経済	279	6.5	12	2.9	80	6.6	70	非	25	非
商	516	6.0	---	---	73	5.8	150	非	40	非
文	506	3.4	備考	3.6	60	4.6	130	非	---	---
総合政策	113	9.1	10	3.9	20	4.5	40	非	30	非
理工	538	3.6	---	---	---	---	84	非	163	非

＊センター試験の受験者数、倍率は非公表

＊文学部の英語検定方式の募集枠は各学科若干名とし、「一般入試個別試験」の 506 名の中に含まれている。

過去 2 年間の一般入試と統一入試の倍率

	2017 年度					2016 年度				
	一般 個別	一般 英語	一般 統一	センター 単独	センター 併願	一般 個別	一般 英語	一般 統一	センター 単独	センター 併願
法（3 科）	70.7	---	71.6	73.0	69.7	70.2	---	69.7	71.9	68.7
法（4 科）	70.7	---	70.7	---	---	68.7	---	68.9	---	---
経済	62.5	59.2	65.8	---	---	60.3	---	65.4	---	---
商	62.6	---	64.3	63.7	62.8	61.8	---	65.1	63.6	64.5
文	63.5	62.2	63.9	66.1	---	63.5	---	64.5	66.1	---
総合政策	63.7	56.2	63.7	68.5	66.7	63.3	---	65.1	67.6	66.7
理工	59.8	---	---	63.6	60.3	60.8	---	---	64.3	61.7

＊センター単独 3 科、4 科など複数の受験方式がある場合は、両偏差値の単純平均を算出している（募集単位ごとの受験者の母数は考慮していない）

過去 3 年間の一般入試と統一入試の倍率

	2017 年度			2016 年度			2015 年度		
	一般 個別	一般 英語	一般 統一	一般 個別	一般 英語	一般 統一	一般 個別	一般 英語	一般 統一
法	3.5	---	5.9	3.4	---	5.4	3.2	---	4.1
経済	6.5	2.9	6.6	4.9	---	4.9	3.9	---	3.4
商	6.0	---	5.8	4.7	---	4.8	4.1	---	4.0
文	3.4	3.6	4.6	3.1	---	7.4	2.9	---	4.4
総合政策	9.1	3.9	4.5	7.1	---	3.8	8.7	---	3.9

統一入試とその他の方式の難易度、倍率の比較だが、偏差値の点からすると一番高いのはセンターの単独方式である。これは難関私大や国公立の受験者がセンターだけで中央を抑えに来るため、一つ抜き出た偏差値になっている。2 番目はセンター併願方式で、統一入試、一般個別方式という順が全体的には言えるだろう。英語検定利用は 1 年しかたっておらず、募集定員も少ないので評価はできないが、4

技能試験が敬遠されたこともあって偏差値的には一番低く、総合政策ではセンター単独方式となんと 12 ポイントの差がつき、もはや同じ大学同じ学部の受験層とは言い難い。

試験問題は英語しか分からないが、少なくとも英語は、統一入試の問題は個別試験より難しく、チャレンジ層には厳しいものとなっている。

過去 3 年間の合格者の最低得点 (%)：　統一入試

		2017 年度	2016 年度	2015 年度
法	法律 4	63	61	59
	国際企業 4	62	61	58
	政治 4	61	60	58
	法律 3	69	68	69
	国際企業 3	68	66	65
	政治 3	67	66	65
経済	経済 I	61	58	55
	情報シ	58	57	55
	国際経済	60	58	55
	公共・環境	58	57	55
商	フリー	59	58	58
文	国文	57	60	58
	英語	60	59	60
	独語	55	59	54
	仏語	55	61	51
	中国言語	54	57	53
	日本史	58	62	60
	東洋史	55	59	55
	西洋史	56	61	55
	哲学	55	61	55
	社会学	61	63	59
	社会情報	59	60	57
	教育学	57	62	64
	心理学	64	60	64
総合政策	政策	63	59	58
	国際政策	63	59	64

B　英語試験の概況

全体的な傾向としては、単語、文法語法の問題が 1 題、下線部なしの間違い探しが 1 題、長文読解が 3 題というのがベースになっており、それに 1 題問題が加わったり、出題傾向が多少工夫されたりという傾向がみられる。問題自体の難易度は MARCH レベルの中では、量、レベル共にかなり高いと言える。中央は法学部が難しいことは知られているが、英文和訳、和文英訳がないものの、マークテストとしてはこの統一入試のほうが難しいだろう。この問題を解いた時の感想は、正直「MARCH の層がこれに対応しきれるのだろうか」「レベルとして早慶上智に差し掛かるものになるのでは」ということである。

難しいと思える理由は 2 つあり、まず 1 つは量である。80 分という時間にあって、かなりのボリュームの読解と文法問題が出される。私自身が解いた際に「90 分の問題」だと勘違いし、80 分と分かってびっくりしたのだが、一般的な MARCH の問題と比べると時間的にかなりきつくなるであろう。2 つ目の理由は大問 3 にあたる間違い探しの問題であるが、対象箇所に下線部が施されていない形式で、文法の間違い探しとしては難関大学でもお目にかからないほどの難易度である。2015 年度、2017 年度はこの形式が 5 問、下線部間違い探しが 5 問と分散されていたが、2016 年度はこの形式のみが 10 問出されており、相当きつい出題だったと言える。

2014 年度に文法問題の出題が変更されるという形式の変更があったが、2015 年度からは一気に読解が長文化し、難易度も高くなった。ここまで急激に量が増えるのも稀で、2015 年度の受験生は当日大きな衝撃を受けたことだろう（たまったもんじゃないよね）。その後も完全に統一はされていないが、ある程度決まった枠の中で出題されている。2017 年度の形式は 2015 年度と全く同じであったが、その間の 2016 年度は大問の数や出題数に変化が見られた。隔年現象で形式が変わっていくのか、それとも 2016 年度の間違い探しが難しかったため、2015 年度の形式に戻して 2017 年度以降は作問をしていくという意図なのかわからないが、どちらの形式で出ても試される力や時間配分の感覚は大きく変わらない。私も 2016 年度、2017 年度の 2 年分を解いたがいずれも 80 分という時間の中で、上述の間違い探しはもちろんのこと、読解問題も量、レベルの両面からとてもやりごたえのある問題だった。

【時間と難易度の目安】

	内容・語数	時間	難度
1	単語・文法語法問題：　4 択空所補充	8	B
2	間違い探し①（下線部あり）	10～16	B
3	間違い探し②（下線部なし）		D/C
4	長文読解：　空所補充 15 問	17	B/C
5	長文読解：　空所補充 10 問	14	
6	長文読解：　空所補充、内容把握	25	

本来ならもう少しゆっくり目に設定したい部分もあるが、80 分の中で分配すると以上のような形になる。私が解くと MARCH レベルの 80 分の問題なら早いと 40 分、かかっても 50 分程度で解き終わることが

多いのだが、この統一入試は 2016 年度では 54 分、2017 年度は 57 分かかった。間違い探しの難易度が高かったので焦らずに時間を割いたということもあるが、読解についてはじっくり確認しながら解いたわけではない。そのことを考えると、慣れている人は上記の時間配分で十分に対応できるかもしれないが、じっくり解いて見直すといった余裕はない。解くのが遅いという人は解き終わらないという事態も出てくるため、速さを意識した演習トレーニングが必要になる。大問 1 ~3 は 8 分、4 分と切りが悪いが「1 分でも短めに解こう」というメッセージとして受け取ってもらえばよいだろう。ポイントは速読と時間をかけずにリズムよく答えを選んでいくスピード感である。長文問題そのもののレベルは B だが、時間的な制限も含めて C というレベルにもなりうると判断をした。

C　出題形式ごとの分析とアプローチ

大問 1

【2017 年】

次の 1～15 の英文の空所に入れるのに最も適切な語句を(a)～(d)の中から 1 つ選び，その記号をマークしなさい。

1. According to a report, Wikipedia is the seventh (　　) website in the world.
   (a) best-reading　(b) most-visited　(c) much-using
   (d) well-known

2. In the U.S.A., baseball is often discussed as a part of a national identity that grew (　　).
   (a) at a time　(b) for the last time　(c) many times
   (d) over time

3. The college-admission process as we know it today began to (　　) about 40 years ago.
   (a) form place　(b) make union　(c) start producing
   (d) take shape

【形式】

4 択式の空所補充。15 問。

【分析・アプローチ・MAX 感想】

文法、語法を問う問題と単語、熟語の問題とが散りばめられている。多少迷う問題もあるが、出題もストレートで、MARCH レベルとしては標準的と言える。単語も熟語もターゲットレベル、文法問題も Next Stage や桐原の 1000 といった標準～難関向けの文法問題集で十分対応可能であり、15 問中最低 10 問、できれば 11 問～12 問は確実に取れるようにしたい。即決できないものも細かい部分に気を配りながらも思い切って選択していこう。全体の時間が態度であることを考えると、この問題形式で時間を延ばすことは絶対あってはならず、1 問 30 秒程度、合計で 8 分以内を目安に解いていきたい。

私が解いたところ､2016 年度は比較的易しめで全問正解できたが､2017 年度は最後の 2 問に躓いた。全体的には「簡単」と言い切れない出題もあったが、自信をもって解答できるものが多かった。2017 年度の 2 問のように、明らかに難しい問題も入っているが、ほかの問題で落とす数を減らし、11 問正解は確保したいところだ。

MAX 所要時間 6 分。

大問 2

【2017 年】

次の 1～5 の英文の(a)～(d)には，文法・語法上の誤りを含むものがそれぞれ 1 つあります。その記号をマークしなさい。

1. (a)In order to prevent injuries at work, employers (b)required by law to (c)provide a safe (d)work environment.

2. (a)Through careful and (b)responsible use of our natural resources, we can (c)ensure a world (d)which future generations will be able to lead better lives.

3. (a)There certainly (b)do appear to be some differences between men and women, and, (c)however they are physical or mental, they clearly (d)have social effects.

大問 3

【2017 年】

次の 1～5 の(a)～(d)の英文には，文法・語法上の誤りを含むものがそれぞれ 1 つあります。その記号をマークしなさい。

1.

(a) After some thought, Thomas came up with a temporary solution.
(b) Alison was no longer able to put up with the situation.
(c) Susan takes after her mother both her looks and in her behavior.
(d) The teacher mixed up the names of her students by mistake.

3.

(a) Certain countries will not allow TV commercials on Sunday, and others will not allow TV commercials for children's products on any weekday.
(b) In the U.S.A., when viewing an advertisement, people value the information about a product over its image.
(c) Kona coffee is the market name for coffee producing in the Kona Districts of Hawaii, and it is one of the most expensive coffees in the world.
(d) Marking a significant shift in its marketing strategy, a multi-national corporation announced today that its brands will be united in one global campaign.

【形式】

大問 2 は一般的な下線部間違い探しであり、大問 3 は下線部なしの間違い探しである。さらに、2014 年度、2016 年度は以下のように、1 つの文章の中としてそれぞれの設問が設定され、その中で 10 題出題された。

【2017 年】

次の 1～10 の文章の(a)～(d)には，文法・語法の誤りを含む，または筋の通らない文が 1 つあります。その記号をマークしなさい。

1. (a) What is jazz and where did it come from?　(b) People have many different answers, but one thing we know for certain is that jazz was born in America.　(c) It developed when the descendants of African slaves combined forms of music from Africa with the European music they listened around them.　(d) The city that is generally thought to be the birthplace of jazz is New Orleans.

2. (a) Visitors to Japan in possession of a sharp eye might notice something unusual about the color of some traffic lights.　(b) It is not that there are anything odd about the basic scheme.　(c) Just like everywhere else, the red light in Japan means “stop,” green is for “go,” and an orange light appears in between.　(d) But those who take a good look will see that the green lights are a different shade of green from that of other countries.

【分析、アプローチ、MAX 感想】

下線部の施されている大問 2 は簡単ではないが、他の MARCH の入試でも見られる形式であり、標準的と言える。当然疑うべきターゲットも決まっていて解きやすいことに加え、文の量も軽く時間もかからない。一方、大問 3 の形式はすべてが間違っている可能性があるわけで、非常に難易度が高い。

2015 年度、2017 年度は大問 2、大問 3 と 2 つの形式で 5 題ずつと分散されて出題されたが、2014 年度、2016 年度は上記の形で 10 題が出された。これは間違い探しを頻出する上智大学もたまげる難易度で、MARCH でこんな出題にお目にかかること自体がびっくりである。下線部が引かれている形式のものは標準的なレベルであるが、見逃してしまいそうな間違いや、文の意味がつかめないと直せないものもある。また私はここで 1 問間違えてしまったが、「細かいところを突いてくるな」とクレームを言いたいものも含まれていた。

大問 3 の間違い部分は難しいものも含まれており、せめて下線部が引かれていればポイントを絞って考えらえるのだが、そうではない中で間違いを探すのは極めて苦しい作業である。さらに、2016 年度の形式は内容から間違いを判断する部分も出てくるため、読解をしながらヒントのない間違い探しをするという非常に高度な間違い探しで、私が解いていてもストレスを感じるレベルで。こんなもの受験生に出すなと怒りさえ沸いてくる。

アプローチとしては、まずは基本的な間違い、定番の間違いは確実に見つけたい。単数、時制、受け身、動詞の形など基本の項目だけは見逃さないように目を通していこう。次に、文の意味から判断することをしなくてはいけない。意味的になんとなく変だな、意味が通じないな、と思う箇所がいくつかある。自分の英語力不足のせいにしがちだが、これまでの積み重ねを信じて、そこの個所から細かく疑っていくしかない。また 4 つ分がある中で 3 つは間違いがない文であるわけだが、その「正しい」と判断する数を増やしていくことが重要だ。私が解いた際も迷ったものがいくつもあったが、そういう問題であっても必ず 2 つの文までは難なく絞ることができ、正答率を高めることができた。間違いを探すという思考の中で「正しい文を判断して消去していく」という作業を正確に行うことが正解を導く大前提だと感じた。

さて、どのぐらい正解すればよいのか。ここはみんなできない問題である。その分、ここでできれば大きな差がつくが、現実的には取りこぼしてはいけない標準問題を確実に取り、それ以外は答えを絞る中で 1 問でも正解が増えるように努力するというところだろう。下線部の問題は 5 問中できれば 4 問、標準でも 3 問正解できれば良い。下線部なしの間違い探しは、もう祈るしかないが、5 問中 3 問とれれば良しとする。これが 10 問出た場合は 6 問とれれば上出来である。受験である以上、5 割以上は落としたくないが、仮に落としても「みんな同じはず」と悩みすぎずに割り切っていくしかない。正直言うとここは難易度とストレスのわりに 25～30 点分にしかならない。できる生徒でも 18～21 点、合格ライン的には 15 点を切る可能性もある。点数を粗末にしていいわけないが、ここは発想の逆転で「できなくても差をつけられにくい」とポジティブにとらえながら精度を高めていきたい。

時間は 2017 年度のように形式が分散されているなら、大問 2 に 4 分、大問 3 に 7 分。2016 年度の形式であればより時間がかかると思われるが、15 分に抑えたい。時間のコストパフォーマンスを考えながら、焦りすぎず、でも一定の割り切りをもって進めていきたい。

MAX 所要時間、2017 年度は 2 題合計で 9 分、2016 年度は 13 分。やはり 2016 年度の 10 題はかなり時間を持っていかれました。ちなみに正解率は、2017 年度の問題は前述の下線部問題が 1 問間違い、2016 年度は全問正解でした（ドヤ顔）。

大問 4&5

【2017 年】

次の英文を読み，1～15 の空所に入れるのに最も適切な語句を，それぞれ(a)～(d)から 1 つ選び，その記号をマークしなさい。*の付いた語句には注があります。

Rock climbing used to be considered an activity that required intense commitment and specialized skills, but in recent years it has broken into the mainstream. A growing number of people in search of new experiences and outdoor adventure have been getting a taste for the crag* in climbing centers around the country. The British Mountaineering Council estimates there are about 5 million visits to climbing walls each year in Britain.

Rock climbing was originally used by (　1　) climbers to practice skills needed to climb difficult sections of a mountain. By the 1980s it had evolved into a globally popular leisure pursuit in its own (　2　), practiced indoors and outdoors with many variations such as bouldering (ropeless climbing at low heights, often above safety mats) and sport climbing (climbing up rock faces dotted with bolts for climbers to clip into).

Who can do rock climbing? Almost anyone can rock climb. At beginner level, it can be enjoyed by people of all ages, fitness levels and abilities. There are courses for children as (　3　) as five and it's not unusual to see people climbing well into their 80s.　中略

1.

(a) beginning　(b) casual　(c) early　(d) experienced

2.

(a) foot　(b) method　(c) need　(d) right

3.

(a) far　(b) many　(c) old　(d) young

4.

(a) even more　(b) no more than　(c) rather than
(d) with even

大問 6

【2017 年】

次の英文を読み，あとの設問に答えなさい。*の付いた語句には注があります。

In 1993, in the early days of the world wide web, a cartoon appeared in the *New Yorker**. It showed two dogs, one sitting at a computer, turning to the other dog and saying: "On the internet, nobody knows you're a dog." The humorous illustration by Peter Steiner and one of the magazine's most reproduced ever, captures the thrill of those early days when the internet, then a matter of slow connections and simple text-only "bulletin boards*", provided a way for people to reshape their identity online. Men could pose as women, the young as old, amateurs as experts. 22 years later, the *New Yorker* published another cartoon on the subject, drawn by Kaamran Hafeez. This time, two dogs are watching their owner sitting in front of his computer. One of them says: "Remember when, on the internet, nobody knew who you were?"　中略

1. 空所(　1　)に入れるのに最も適切な語句を(a)～(d)から 1 つ選び，その記号をマークしなさい。
   (a)　as if　　(b)　even though　　(c)　even when
   (d)　only if

2. 空所(　2　)に入れるのに最も適切な語句を(a)～(d)から 1 つ選び，その記号をマークしなさい。
   (a)　a huge amount of time　　(b)　a productive use of media
   (c)　an unusual amount of money　　(d)　as little strength as possible

6. 本文の内容に照らし，以下の英文を完成するために，最も適切なものを(a)～(d)から 1 つ選び，その記号をマークしなさい。

According to this article,

   (a)　everyone should stop using the internet because the number of people using false identities has risen.
   (b)　internet use has become so common that users' characteristics have become remarkably similar.
   (c)　the experience of reading is not very different from accessing the internet.
   (d)　users of the internet construct their identity according to how they are perceived online.

【形式】

最後の 3 つの大問で長文問題が出題される（計 6 つの大問で構成されていた 2017 年度は大問 4～6）。設問の構成としては、2017 年度の大問 4、5 のように 550～800 語の長文の中で 10～15 問の空所補充が出題されるものと大問 6 のように空所補充と内容理解の問題が半々ぐらい（2017 年度は空所補充 5 問、内容理解 5 問）の割合で構成されるものがある。2016 年度は空所補充だけの長文が 1 題、混合型が 2 題となっていた。このように設問形式や数は多少異なるものの、2015 年度以降は大差ない出題傾向と言えるだろう。

【分析】

まず注目したいのが文章の長さである。英語試験の概況でも述べたが、2015 年度から一気に文量が増えた。以下の通り、過去 6 年間の長文 3 題の語数をカウントしてみたが、明らかに 2015 年度から文良の変化が認められる。2014 年度までは 80 分の試験時間の中で長文合計 1200～1400 語程度で済んだので時間もかなり余裕があり、「MARCH の全学部入試がこんなレベルでいいのか！」とクレームをつけたいレベルであったが、2015 年度から受験生もびっくり、いきなり倍に増えたのである。平均的に 1000 語増えたことになるが、単純に読むだけでも 10 分近く、さらに解くとなると最低でも 15 分ぐらいの時間がプラスでかかることになる。さらに 2017 年度の問題を解いていて気になったのは選択肢自体が長文化しているのでは、ということである。長文 3 の内容理解に関する最後の 5 問の設問、選択肢だけで 350 語となっている。そのような点からもますます速読や大意把握を求めた出題にシフトしているのではと推測できる。

文章自体のレベルは標準からやや難というレベル。ところどころ細かい意味解釈も求められるが、大意はとりやすく、読みやすい。

	2017 年度	2016 年度	2015 年度	2014 年度	2013 年度	2012 年度
長文 1	780 語	750 語	660 語	450 語	350 語	410 語
長文 2	570 語	770 語	540 語	370 語	310 語	370 語
長文 3	1010 語	690 語	1460 語	540 語	530 語	430 語
合計	2360 語	2210 語	2660 語	1360 語	1190 語	1210 語

【アプローチ】

基本はとにかく速読と大意把握である。設問形式が空所補充に偏っているので、空所の前後を集中的に読むようにしてメリハリをつけた読解を意識したい。

空所補充だけの長文は First Reading で解きながら読んでいくことも可能であり、確かに時間的にはそちらのほうが得策かもしれないし、Second Reading で空所に戻ってくると前後の部分の意味確認が必要とされるため面倒くさく思えるだろう。しかし、後ろの部分を読まないと埋められない問題もある。例えば、2017 年度の大問 4 で ”There are also some very noticeable developments (　7　) of the age scale.” という空所があるのだが、これは「思春期だけでなく、老いていく際にも発声に変化が生じる」という内容をとれないと、「at the opposite end」という正解が選べない。そういうことも考えると、より正答率を高めていくには First Reading で大意を確認したのちに、Second Reading で答えを決めていくといった王道のプロセスが望ましい。ただし、時間がきつい人は、First Reading でめどをつけな

がら、時間のリスクヘッジをとることも必要だろう。実際に、私も 2 つのアプローチを今回の問題に試してみたが、First Reading だけで答えていくほうが時間は 2 分ほど節約できるし、確かに面倒くさくない。ただ、正確さと言う点からすると、上記のような問題もあるため Second Reading で解くほうが無難だという感覚がある。これが一般受験生の英語レベルになった時に、速さと正確さにどう影響するのかということもあるが、1 つの手法として、First Reading で即決できるものは答えていき、即決できないものは Second Reading に回すという折衷案が妥当かも知れない。

最後の読解は 1000 語超という長さであることに加え、難しい内容理解問題も含まれているため、First Reading をしながら答えていくことは現実的ではない。1000 語を超える問題でも WPM100 を保ち、10 分で First Reading を終えて解答に入りたい。内容理解の問題は、長文が長いため、あらかじめ設問のリード文でキーワードをいくつか拾っておくとよいだろう。Second Reading で該当箇所を細かく読んでいくしかない。First Reading 後にあらかじめ選択肢を絞り、重点的に精査をしたい。

【MAX 感想】

間違い探しで神経を使った後に、長文が 3 つ、しかも最後の長文は 1000 語オーバーとなっていて「長いな～」という思いながら問題を解き進めていった。しかも 2017 年度の問題は大問 4 から大問 6 の前半まで延々と計 30 個の空所を埋めていくので、イライラもする。長文のレベルは MARCH としては至って標準レベルだと感じるが、1000 語を超えると大意把握が難しくなるので、さらっと読めずに躓いてしまう人には厳しいかもと思ったことも事実である。2017 年度の大問 6 は著作権の都合で冒頭のイラストが省略されている状態で読み始めたこともあって、英文のレベルもやや難しく、二度読みしながら進めていた箇所もあった。

また、私から見ても選択肢が紛らわしいと思うものが 3 割ぐらいあった。特に空所補充がやりづらいと思い、実際、15 問中 3 問落としてしまった大問が出てしまった（これはショック）。見直してみてもやはり難しい問題だったと感じている。内容把握の問題でも、特に 2016 年度の問題では、私の解いた紙に「ビミョウ」というメモがいくつかの問題で痕跡として残っていた。結局これらは全部正解したのだが、選択肢を完全に選びきれなかった心境が表れている。

解くポイントはとにかく時間であろう。英語試験の概況でも述べたが、全体的に時間がタイトで、読み直しや細かい確認を逐一している時間はない。特に空所補充は数が多く、1 つ 1 つを吟味していることはできないので First Reading で大意を取り、テンポよく答えを決めていく必要がある。時間は最初の 2 つの長文を各 15 分前後とし、設問の数で±2～3 分程度の中で調整していく。最後の長文はおそらく最後の長文に 25 分以上時間をとれる受験生は多くないと思う（どんなにとれても 30 分はとれないだろう）。内容理解の選択肢が長く、解答にも時間を要することを考えれば、あくまでも WPM100 の時間計算でいきたい（1000 語なら 10 分後には問題を解き始める）。仮に 2014 年度のように 1400 語の長文が出たら、読むだけで 12～15 分かかり、解答時間が 10 分程度しかないことになり、相当厳しくなる。1000 語を超えるため速度を保つのがきつい人もいるかと思うが、なんとかそこは維持したい。

正解の目標は各大問 6 割を最低ラインとし、7 割に持っていける大問を 1 つか 2 つ作りたい。間違い探し問題の難易度を考えると、これらの長文で合計 6 割前後だと不安が残る。90 点超を占める長文 3 題で 7 割に近い数字を出し、安定ラインを確保したい。

MAX 所要時間（2017 年度）は大問 4 が 10 分（解きながら読んでいく解答方法）、大問 5 が 12 分（First Reading4 分半、解答 7 分半）、大問 6 が 20 分（First Reading が 8 分半、解答 12 分）。